

# リード芦屋新聞

発行元  
芦屋市立  
あしや活動  
センター  
リードあしや  
記事  
京谷村

## 作る楽しさを伝える

### 芦屋Tioクラブ西本佳子さんに聞く

10月2日に開催された「こどもひろば あんあーと」で子どもたちにおもちゃ作りを教えた芦人認定者の西本佳子さん（76）に話を聞いた。

西本さんは市民団体「芦屋Tioクラブ」の代表を務めている。「Tio」とは、T：地域でV：いきいき▽O：おもしろくーの略である。

主にイベントの時に活動しているそうで、おもちゃ作りだけでなくボランティア音楽会や腹話術もしている。また芦屋の自然や風物詩の写真展なども行ったりしている。



今回のイベントでは、「恐竜のたまご」「ペンハムのコマ」の作り方を教えていた。

西本さんは、子どもたちにおもちゃ作りを教えるうえで大切に行っていることは何かという質問にこう答えた。

「子どもが自分でできるまで待つことです」。小さな子どもにとつて少し難しい動作でも、急かさずに自分でできるまで一緒に試行錯誤するようにしている。それは、子どもに作ることの楽しさを感じてもらいたいからだ。「子どもたちが自分の手で作ったおもちゃを完成させたときの『できた!!』というキラキラした笑顔を見るのが、何にも変えがたい喜びです」と続けて話した。

## 子ども心を忘れない 次世代に繋げたい手作りの温もり



子どもたちにおもちゃ作りを教えている西本さんも活動をするときに自分たちも楽しむことが出来るようにプログラムを工夫している。「いくつになっても、子どもの心を忘れないで遊ぶという気持ちが大事だと思っています」と話していた。作り方を教える側も一緒に遊んで、面白いことを共有する。そうすることで完成したときの喜びをより一層感じられるそう

だ。今の子どもたちが遊ぶおもちゃは機械的なものが多くなっている。「おもちゃ作り」には、ただ作って遊ぶだけでなく、そのことを通して、現代まで伝わっている昔の遊びの伝承記録を、次の世代に繋いでいく役割がある。目にするものが少なくなった手作りのおもちゃにしかない温もりを、活動によってさらに子どもたちに広げてほしい。